

事業実績（視察）報告

1. 視察の概要

- (1) 目的 宿坊体験型教育旅行について
- (2) 日時 令和5年10月11日(水)AM10:30～12:00
- (3) 場所 神奈川県伊勢原市
- (4) 参加者 大塚久美子議員1名 他市議員2名



(伊勢原市役所前)

2. 主な質疑・答弁

Q 日本遺産「大山まいり」を生かした教育旅行の取組の概要はどのようなか

A 大山の賛同には江戸時代にタイムスリップしたような、歴史を感じさせる宿坊が軒を連ねている。立ち並ぶ宿坊では、先導師や板まねぎ、名物豆腐料理など、大山特有の文化を今に伝えている。他では味わうことのできない、大山の宿坊ならではの体験をすることができる。



Q なぜ教育旅行なのか

A 平成・令和の「大山詣り」の課題・交通網の向上により、宿泊需要が減少。

・伝統的な「講」の受入れが先細りし、「ただの旅籠」としての宿泊客が増えた。

・団体旅行から個人旅行への転換とネット予約の普及。

●宿坊の特徴 強み:古くから「講」を受け入れており、団体旅行の受入れに強い。

弱点:個人旅行も受け入れられるが、1 グループしか受け入れられない宿坊も多い。

(十分な個室の準備が少ない)

●教育旅行のメリット・複数の宿坊を活用して、「団体旅行」の受入れが可能。・学校を疑似的な「講」として、先導師としての活動の継続・学生の将来的なりピーターに期待できる。



Q 体験メニューはどのようなものがあるか

A

●大山詣り体験 江戸時代から続く大山阿夫利神社への参拝を宿坊の主である先導師の案内で宿坊から大山阿夫利神社下社まで登る体験 道中では、大山詣りの歴史や大山の歴史を楽しみながら、自然豊かな 大山の登山を楽しんでもらう。また、大山阿夫利神社下社では正式参拝を行うことも出来る。宿坊への宿泊と合わせた基本の体験

●浄書体験 朝食前や朝食後の朝の時間に、神道の祝詞を写経のように書き写す体験。

●大山とうふ作り体験 大山名物大山とうふの作り方の説明と、夕飯では、小鍋で温めた豆乳 ににがりを入れて、自分で大山とうふを作る体験が出来る。

●大山能教室・大山落語鑑賞 当時から続く日本の伝統を体験できる。能教室は、社

務局にある屋外の能楽殿で能教室を行う。落語鑑賞では、1つの宿坊に集まり、本物の落語家の落語の鑑賞を行う。

Q 実績は

A 平成30年～令和5年

受入学校数:16校

受入人数 :2,300人

- ・経済効果 令和3年までの集計
地元への経済効果:約600万円
- ・先導師会旅館組合との連携の強まり
- ・ジビエフェアの開催など別事業での連携が高まった。



(視察中の様子)

3. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

伊勢原市は、地域資源を生かし、歴史と観光と信仰を現在まで受け継いできている。大山まいりは江戸の人口が100万人の時代に、年間20万人もの参拝者が訪れていた。首都近郊に残る豊かな自然と、現存する数々の歴史に触れることのできるまちである。全国でも珍しい宿坊での宿泊体験を教育旅行として提供している。

本市においても、地域資源や歴史文化を観光に結び付けていく取組の参考にしたい。地域を守ってきた先人の継承をすることはこれからの歴史を創ることに繋がるため、様々な取組が期待される場所である。市の観光に活かせるよう働きかけていきたい。

会派名：公明党西尾市議団

事業実績（研修）報告

1. 研修の概要

(1) 目的 全国都市問題会議

文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展について

(2) 日時 令和5年10月12日(木)・13日(金)

(3) 場所 青森県八戸市

(4) 参加者 大塚久美子議員1名 他3名

2. 研修内容と所感

第85回 全国都市問題会議

文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

1日目

基調講演

アートの役割ってなんだろう？

東京藝術大学長/アーティスト 日比野克彦 氏

アートは生きる力

アートは多様性の指針

アートはこころに作用する

日常生活の中でアートは必要なものである。

主報告

八戸の文化・スポーツによるまちづくり

青森県八戸市長 熊谷雄一 氏

文化によるまちづくり

スポーツによるまちづくり

- ・地域資源を活かす拠点とネットワークをつくること
- ・関心やテーマに基づく「コミュニティと当事者」を増やすこと
- ・今後の展望は開かれたパブリックな場をつくること



(八戸市公会堂前)

一般報告

まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる

文化事業ディレクター、演出家 吉川由美 氏

- ・まちのリノベーションと「はっち」の誕生
- ・はっちのアート・プロジェクト
- ・地域社会の分母としての「文化をみんなで見出す
- ・危機と文化
- ・地域の活力と魅力の源泉は「地域の文化」

一般報告

標高差 1,500mの地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出

長野県東御市長 花岡利夫 氏

- ・文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展に向け
- ・欠点を個性に
- ・地域固有の価値を創出し再断言に活かす
- ・合言葉は「東御から世界へ」

一般報告

まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用

株式会社 鹿島アントラーズFC 取締役副社長 鈴木秀樹 氏

- ・全国に広がるスポーツクラブ
- ・鹿島アントラーズと地域との深いつながり
- ・鹿島アントラーズによる地域の社会課題解決
- ・プロスポーツクラブを有効に使いきる

2日目

パネルディスカッション

テーマ

文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

一巡した文化芸術を活用したまちづくり

自治体文化行政から魅力的なまちへ

コーディネーター 東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林真理 氏

パネリスト

合同会社 imajimu 代表取締役 今川和佳子 氏
 柘植大学商学部教授 松橋崇史 氏
 静岡県沼津市長 頼重秀一 氏
 京都府綾部市長 山崎善也 氏



(研修中)

所感

文化芸術・スポーツは、市民の生活に豊かさや潤いをもたらすと同時に人々の間につながりを生み出し、それが都市のにぎわいやアメニティを醸し出し、やがては都市の“顔”を形作る。地域に住む人々がいつまでも暮らし続けたいと思われよう都市を作っていくための営みであり、持続的な発展へと結びつけていくことが望まれる。本市においては、地域資源が豊富にあるがそれを有効利用して市民の暮らしやすさに結び付けていないと思う。スポーツによるまちづくりを推進している本市だが、スポーツと文化は結びついて、いることを忘れないでもらいたい。一般報告や、パネリストのような核となる人材が必要で、その起用によってどのように展開していくかが変わる。職員を含めて、市民が誇れる本市のために視点を広げて取り組む必要があると考える有意義な研修となった。

収支報告

項目	支出金額	備考
研修費	10,000 円	
資料購入費	0 円	
旅費	83,000 円	
計	93,000 円	